

リサーチファシリティ通信

第 5 号

2025.10.22 発行



「やまぐちファシリティネットワーク」が参画機関数を拡大し、新たに活動を開始しました！

やまぐちファシリティネットワークは、参画する大学、高等専門学校、公設試験場等が保有する研究開発用設備・機器の共同利用を促進し、科学技術の振興、産業の活性化、革新的な技術やサービスの創出、およびこれらを担う人材の育成や、山口県における研究開発用設備・機器の共同利用文化の定着を目的としており、本ネットワークの様々な活動を通じ、山口県における研究開発の活性化と、そこから生まれる成果の社会への還元が期待される新たな体制です。

令和 7 年 10 月 7 日、やまぐち産業振興財団、山口県産業技術センター、山口大学の 3 者が、研究設備・機器の情報共有、相互利用等の推進を目的に令和 6 年 2 月に構築した「やまぐちファシリティネットワーク」は、県内の高等教育機関や公設試験研究機関、計 5 機関を新たに加え、目的や活動内容を明確にするための運営会議と記念すべき最初の活動となる未来創造シンポジウムを KDDI 維新ホールにて開催しました。





注)やまぐちファシリティネットワーク

【参画機関】宇部工業高等専門学校、大島商船高等専門学校、山陽小野田市立山口東京理科大学、徳山工業高等専門学校、山口県産業技術センター、山口県農林総合技術センター、やまぐち産業振興財団、山口大学※50 音順

【事務局】山口大学(リサーチファシリティマネジメントセンター事務局)



論文投稿等における謝辞記載のお願い

文部科学省より、研究開発関連の各事業と論文を適切に紐づけて研究成果・研究動向等との関係を明らかにし、エビデンスベースの各事業/各機関の評価や政策立案等の参考の一つとして活用するため、研究費ごとに体系的番号を付与するとともに、論文の謝辞や論文投稿時において体系的番号を記載するよう周知依頼がありました。

山口大学では、現在文部科学省の令和 2 年度「先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)」の支援を受けており、本学全学共用機器を利用した成果を研究論文等で発表される際には、山口大学の課題番号「JPMXS04404000XX」を記載いただくようお願いいたします(末尾の XX は機器利用年の西暦下二桁(2024 年利用の場合→24)。

事業成果である研究論文等に謝辞を記載いただくことは、事業や山口大学の成果・評価につながります。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

具体的な例文は当センターHPに記載しております。



<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/facility/acknowledgments/>



機器有効活用マッチング制度について

「機器有効活用マッチング制度」とは、各施設や研究室等で使用されていない、または今後使用する予定がなくなる研究設備・機器をご提供いただき、譲り受けを希望される方に仲介するという制度です。

各施設や研究室等で使用されていない、または今後使用する予定がなくなる研究設備・機器等がございましたら、ご提供くださるようご協力をお願いいたします。



<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/facility/matching/>